

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	とりはた玄海園 ここColor		
○保護者評価実施期間	2026年 3月 4日		2026年 3月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 10人
○従業者評価実施期間	2026年 3月 4日		2026年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自閉症支援に力を入れた事業所である ・障害特性の理解 ・構造化の環境を取り入れている ・個別化の対応を原則としている	一人ひとりのアセスメントに基づき、スケジュールや自立課題を作製、または余暇活動を設定している。また代替コミュニケーションカードの導入し、意思形成を図る支援など実施している。	さらに職員のアセスメントスキルの向上を目指し、活動内容の充実を図る。
2	研修の充実 毎月、外部講師によるアドバイザー研修を受け、自閉症支援の専門性(知識や技術)の向上を図っている。	講義だけでなく、ケース検討を行いながら学びを継続している。今年度は、障害特性シート・冰山モデルシート・スモールステップシート・事象記録・自立度チェックシート等のフレームワークを活用した支援の実践に重点をおいた。	フレームワークを活用した支援について、更に学びを深め実践していく。
3	家族との連携 保護者とのモニタリング時、支援計画の達成状況を確認しながら成長過程とともに、障害特性を踏まえた支援方法について連携を図っている。	保護者には、特性を踏まえて支援している内容をモニタリング時お伝えして共有を図っている。	家族、支援者(相談支援専門員、学校)の連携を図り、特性を理解しながら同じ方向感で支援していきたい。また、自閉症支援に関する講義やセミナーなど紹介していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人材の定着、育成 基準の配置は満たしているが、非常勤職員を含めて定着を図る。また、OJT、チームビルディングの体制の強化に取り組む。	重度自閉症児を支援するにあたり、基準以上の配置が必要と考えている。また、支援者チーム強化を図るため、今年度10回自閉症支援に特化している事業所にて児発管が実習という形で研修を受けた。得た学びをOJTしながら、人材育成に取り組んでいる。	OJT体制を構築し、更にチームビルディングの強化を図る。
2	マニュアルや安全計画等の周知を強化	連絡帳アプリの導入を図り、日々の活動時の様子などをこれまでの紙ベースのよりも詳しくお伝えすることは出来るようになっていく。更にアプリの活用で、保護者全体への周知に至っていない事項について改善したい。	会報作成は負担が大きいため、アプリの導入を行った。アプリを活用してマニュアルや安全計画の更新時、リアルタイムで周知を図れる体制の構築を図る。
3	放課後児童クラブや児童館との交流 地域の他のこどもと活動する機会	ニーズ(保護者および本人)がないため、実施はしていない。	本人にあった交流方法で実施することが必要であり、インクルージョンを踏まえた取り組みとして、社会資源の活用については実施している(買い物や公共交通機関および公共交通施設の利用)。卒後の生活に必要な取り組みであり、今後も機会を増やしていく。また、戸外活動は地域の公園を利用して、地域の子供達と交代で遊具を使用する、順番を守る等の経験を積んでいる。